令和9年度

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）

学 生 募 集 要 項

国立大学法人

鹿屋体育大学

National Institute of
Fitness and Sports in KANOYA

目　　次

1　本学大学院体育学研究科（博士後期課程）のアドミッション・ポリシー ……1
2　専攻及び募集人員……2
3　出願資格……2
4　選抜日程……4
5　選抜方法……4
6　出願方法……5
7　出願書類等の提出先及び照会先……12
8　受験票のダウンロード及び印刷……12
9　受験者心得の案内……12
10　試験場 ……12
11　合格者の発表 ……12
12　入学手続・入学料等 ……13
13　第2次募集……13
14　指導教員及び副指導教員……13
15　障害のある者等の事前相談 ……13
16　個人の入試情報の開示請求方法……14
17　その他……14
18　福利厚生等 ……15
◆本学までの主な交通経路……17
◆鹿屋体育大学位置図……18

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）入学案内

1　設置の趣旨・目的 ……20
2　教育研究上の特色……20
3　国立スポーツ科学センターとの連携大学院について ……20
4　熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学・福岡県立大学との連携大学院について ……21
5　履修方法等……21
6　体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）担当教員一覧……22
7　開設授業科目及び授業担当教員一覧（博士後期課程）……27
8　学位の授与……28
9　大学院設置基準第14条に定める「教育方法の特例」……28
10　長期履修学生制度……28

【選抜日程等】

インターネット出願サイト登録期間	令和8年9月9日（水）～9月24日（木）15時
出願書類提出期間	令和8年9月16日（水）～9月24日（木）
選抜日程	令和8年10月22日（木）
合格者発表日	令和8年11月2日（月）
入学手続期間	令和9年3月15日（月）～3月23日（火）

※インターネット出願サイトによるマイページ登録については，インターネット出願サイト登録期間前に実施することが可能です。

入学料特別免除制度

本学では，「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。

ただし，本学大学院体育学研究科の修士課程を修了し，引き続き本学大学院体育学研究科の博士後期課程に進学する者については，入学料を徴収しないため対象とはなりません。

令和9年度鹿屋体育大学大学院体育学研究科
体育学専攻（博士後期課程）学生募集要項

1　本学大学院体育学研究科（博士後期課程）のアドミッション・ポリシー

21世紀の体育学は，人文・社会科学分野と自然科学分野の諸科学が体系的に融合し，学際的な複合新領域として発展する方向にあります。体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）では，体育学に関する最先端の研究活動を推進するとともに，スポーツや身体運動を通して，国民が健康で幸福を享受できる社会の構築に貢献する高度な専門的能力を有する人材の育成を目指しています。

◎求める学生像

本課程では，次のような人材を求めています。

- 豊富なスポーツ実践活動の経験を有し，科学的な研究成果を実践へと応用することによって，我が国及び諸外国における競技スポーツや武道実践の分野，体育及びスポーツ教育の分野で高度に活躍する意志と能力を持つ人
- 生涯スポーツが国民の健康や幸福に与える価値を認め，我が国及び諸外国のスポーツや身体運動に関する文化，地域政策，医療福祉，健康産業，ビジネスなどの分野で活躍する意志と能力を持つ人
- 国際的な視野と感覚を有し，スポーツや身体運動に関する高い水準の独創的研究によって，世界的な研究者として活躍する意志と能力を持つ人

◎入学者選抜の基本方針

- 一般入試では，各分野で必要な専門知識，これまでの研究内容及び入学後の研究計画を評価するための口述試験，英語能力を評価するための外国語（英語）試験，その他提出書類により総合的に評価します。

ただし，スーパー・スチューデント（SS）及びスーパー・コーチャー（SC）に認定された者は，各分野で必要な専門知識，これまでの研究内容及び入学後の研究計画を評価するための口述試験，その他提出書類により総合的に評価します。

2 専攻及び募集人員

専　　攻	募 集 人 員
体 育 学	6人

募集人員6人には次の⑴～⑶の者を含む。

⑴ SS・SC（若干人）

- SS（スーパー・スチューデントの略）とは，国際大会に出場した経験を有し，その経験を基に，明確な研究テーマを持ち，かつ十分な研究意欲のある者で，事前に本学において認定された者とします。
- SC（スーパー・コーチャーの略）とは，指導又はサポート歴の特に高い者で，事前に本学において認定された者とします。

※ SS及びSCの認定と受入体制に関しては，出願に先立ち，令和8年8月18日（火）までに，必要書類を提出する必要がありますので，本学教務課入試係へ問い合わせの上，3頁の「SS認定審査について」または4頁の「SC認定審査について」に記載の書類を送付（書留速達郵便）してください。

⑵ 国立スポーツ科学センターにおいて履修及び研究指導を受ける者（若干人）

- 20頁を参照してください。

⑶ 体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムにおいて履修及び研究指導を受ける者（若干人）

- 21頁を参照してください。

（注） 本学博士後期課程においては，転入学及び再入学の制度がありますので，希望者は，本学教務課入試係へ問い合わせてください。

3 出願資格

大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）入試に出願できる者は，次の⑴～⑻のいずれか，かつ⑼を満たす者です。

⑴ 修士の学位又は専門職学位を有する者及び令和9年3月までに取得見込みの者

⑵ 外国において修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者

⑶ 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者

⑷ 我が国において，外国の大学院の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって，文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し，修士の学位又は専門職学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者

⑸ 国際連合大学本部に関する国際連合と日本国との間の協定の実施に伴う特別措置法第1条第2項に規定する1972年12月11日の国際連合総会決議に基づき設立された国際連合大学の課程を修了し，修士の学位に相当する学位を授与された者及び令和9年3月までに授与される見込みの者

⑹ 外国の学校，⑷の指定を受けた教育施設又は国際連合大学の教育課程を履修し，大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格し，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者（注2）

⑺ 文部科学大臣の指定した者（平成元年文部省告示第118号）（注1）（注2）

⑻ 本学大学院において，個別の入学資格審査により，修士の学位又は専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，令和9年3月までに24歳に達するもの（注2）

⑼　大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）入学試験実施日から過去2年以内にTOEFL又はTOEIC Listening ＆ Reading Test（TOEIC－IPを含む。）を受験し，一定のスコア（TOEFL－iBTは120点満点のうち24点以上，TOEIC（TOEIC－IP含む。）は990点満点のうち300点以上）を取得している者（ただし，SS又はSCと認定された者は除く。）

（注1）　文部科学大臣の指定した者に該当する者は，次の者です。

1）　大学を卒業し，大学・研究所等において，2年以上研究に従事した者で，本学大学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

2）　外国において学校教育における16年の課程を修了した後，又は外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した後，大学・研究所等において，2年以上研究に従事した者で，本学大学院において，当該研究の成果等により，修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者

（注2）　上記⑹～⑻により出願しようとする者は，事前に審査を受ける必要がありますので，本学教務課入試係へ問い合わせの上，指定する期日までに下記「個別の入学資格審査について」に記載の書類を送付（書留速達郵便）してください。**なお，事前審査の手続を行う前に，必ず研究指導を希望する教員（研究指導教員となり得る教員）と連絡を取り，あらかじめ入学後の履修・研究内容などについて相談してください。**

①　個別の入学資格審査について

提　出　期　限	令和8年8月18日（火）	
提　出　書　類	全　員	・入学資格審査希望調書【本学様式】 ・最終学校の卒業証明書及び成績証明書 ・学術論文及び論文要旨（3点まで，コピー可，論文要旨は日本語で2,000字程度）
	出願資格⑹該当者	大学院設置基準第16条の2に規定する試験及び審査に相当するものに合格したことを証明するもの
	出願資格⑺該当者	研究歴証明書【本学様式】
	出願資格⑻該当者	志望理由書【本学様式】
審　査　方　法	書類審査により実施します。	
審査結果の発表	令和8年9月4日（金）に審査結果を文書で通知します。	
書類送付先及び問い合わせ先	〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL　0994-46-4869　FAX　0994-46-2533 封筒の表に「博士後期課程個別の入学資格審査書類在中」と朱書してください。	

②　SS認定審査について

提　出　期　限	令和8年8月18日（火）
提　出　書　類	・SS認定調書【本学様式】 ・体育・スポーツ歴調書（SS認定希望者用）【本学様式】 ・研究計画書【本学様式】 ・国際大会出場を証明できる書類（写）
審　査　方　法	書類審査により実施します。
審査結果の発表	令和8年9月4日（金）に審査結果を文書で通知します。
書類送付先及び問い合わせ先	〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL　0994-46-4869　FAX　0994-46-2533 封筒の表に「博士後期課程SS認定審査書類在中」と朱書してください。

③ SC認定審査について

提　出　期　限	令和8年8月18日(火)
提　出　書　類	・SC認定調書【本学様式】 ・体育・スポーツ歴調書(SC認定希望者用)【本学様式】 ・研究計画書【本学様式】 ・指導活動計画書(SC認定希望者用)【本学様式】 ・各国代表選手を指導又はサポートしたことを証明できる書類(写) ・代表スタッフとして指導又はサポートした選手の成績を証明できる書類(写)
審　査　方　法	書類審査により実施します。
審査結果の発表	令和8年9月4日(金)に審査結果を文書で通知します。
書類送付先及び問い合わせ先	〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学教務課入試係 TEL　0994-46-4869　FAX　0994-46-2533 封筒の表に「博士後期課程SC認定審査書類在中」と朱書してください。

出願資格に関する注意事項

(1)　SSに出願できる者は,「国際大会に出場した経験を有し, その経験を基に, 明確な研究テーマを持ち, かつ十分な研究意欲のある者」とします。

(2)　SCに出願できる者は,「各国代表の選手を指導又はサポートした実績(当該国において, ナショナルチームに帯同したスタッフ(監督, ヘッドコーチ, アシスタントコーチ, アナリスト及びトレーナーなど))を有し, 高度な指導知識や実践的能力を備えたスタッフとして, 国際的な競技力向上に寄与する意欲のある者で, 指導又はサポートについての明確な研究テーマを持つ者」とします。

※ここでいうナショナルチームとは, フル代表やA代表のことを指し, ジュニアやU-18等年齢別のカテゴリーは除きます。

なお, 出願資格について不明な点は, 令和8年8月17日(月)までに教務課入試係(TEL 0994-46-4869)へ問い合わせてください。

4 選抜日程

選抜日時	令和8年10月22日(木) 9:30～
試験科目	口述試験

5 選抜方法

大学院体育学研究科体育学専攻(博士後期課程)の入学者選抜は, 修士論文又はこれに相当する論文及び出願書類と学力試験〔外国語(英語)・口述試験〕の結果を総合して選抜します。

合否判定の基本方針

1 外国語(英語), 口述試験及び書類審査の合計得点の高い者から合格とします。
なお, 同得点の者が複数の場合には, 口述試験, 書類審査, 外国語(英語)の結果の順に判断します。

2 SS又はSCと認定された者は, 口述試験及び書類審査の結果がいずれも可否評価のうち可の者を合格とします。

3 口述試験及び書類審査の合計得点が100点満点のうち30点未満の者(SS又はSC認定者は除く。)は, 不合格とします。

学力試験

① 外国語(英語)(100点満点で評価)

・外国語(英語)は出願時に提出した「TOEFL又はTOEIC Listening & Reading Testのスコア」によって評価を行います。

・入学試験実施日から2年以内に受験したTOEFL又はTOEIC(TOEIC－IP含む。)のテストの結果を評価します。

ただし,TOEFL－iBT 120点満点のうち24点未満の者,TOEIC(TOEIC－IP含む。)990点満点のうち300点未満の者は除きます。

② 口述試験(60点満点で評価)(SS及びSC認定者は「可」「否」で評価)

・専門的知識,研究計画及び提出論文等について試問します。

・実施方法は,受験者の研究計画の内容についてのプレゼンテーション後に,質疑応答形式で行います。

・受験者1人当たりの時間は,おおむね20分とします。(内訳:プレゼンテーション時間5分,質疑応答時間15分)

③ 書類審査(40点満点で評価)(SS及びSC認定者は「可」「否」で評価)

・研究計画書に基づき,評価します。

6 出願方法

体育学専攻(博士後期課程)の出願は,インターネット出願で行います。

インターネット出願サイト:https://e-apply.jp/ds/nifs-k/

⑴ 出願期間

■インターネット出願登録期間及び入学検定料払込期間

令和8年9月9日(水)～9月24日(木)15 時

■出願書類提出期間

令和8年9月16日(水)～9月24日(木)

① 直接持参する場合の受付時間は,8時 30 分から 17 時 15 分までとします。

ただし,土曜日,日曜日及び国民の祝日(振替休日を含む。)は受付を行いません。

② 郵送の場合は9月24日(木)17 時 15 分必着とします。

(注)出願期間後は一切受理しませんので,郵送による場合は郵送期間を十分に考慮して送付してください。

⑵ 入学検定料(本学大学院修士課程修了見込みの者及び国費外国人留学生は除く。)

30,000円

お支払い方法については,「⑶ 出願の流れについて」をご確認ください。また,入学検定料の支払いを完了しても,まだ出願手続きは完了していません。引き続き,出願に必要な書類の印刷及び提出を出願書類提出期間に行う必要がありますので,ご注意ください。

なお,下記の場合以外は,既納の入学検定料はいかなる理由があっても返還しません。

ア 出願書類等を提出したが,受理されなかった場合

該当者に連絡しますので,所定の期日までに手続を行ってください。

イ 入学検定料を振り込み後,本学に出願しなかった場合

ウ 入学検定料を誤って二重に振り込んだ場合又は所定の金額より多く払い込んだ場合

上記イ及びウについては,本人の申し出により納入された入学検定料又は超過分を返還することができますので,必ず令和8年10月20日(火)までに教務課入試係(電話 0994-46-4869)へ連絡してください。

なお,本学大学院修士課程修了見込みの者及び国費外国人留学生はインターネット出願サイトにて出願登録を行う前に,教務課入試係(電話 0994-46-4869)へ連絡してください。

(3)　出願の流れについて

インターネット出願の流れ

出願完了までの流れは，以下の通りです

STEP 1	STEP 2	STEP 3	STEP 4	STEP 5	STEP 6	STEP 7
事前準備	出願サイトにアクセス	マイページの登録	出願内容の登録	入学検定料の支払い	必要書類の郵送	出願完了	受験票の印刷

STEP 1　事前準備

インターネットに接続されたパソコン，プリンターなどを用意してください。
必要書類※は，発行まで時間を要する場合があります。早めに準備を始め，出願前には必ず手元にあるようにしておいてください。

※必要書類…顔写真データ,TOEIC･TOEFL スコア票,修士論文等,修了(見込)証明書,成績証明書など
詳細は学生募集要項を参照



STEP 2　インターネット出願サイトにアクセス

インターネット出願サイト ▶ **https://e-apply.jp/ds/nifs-k/**

または，

大学ホームページ ▶ **https://www.nifs-k.ac.jp/examinees/**

からアクセス



STEP 3　マイページの登録

画面の手順に従って，必要事項を入力してマイページ登録を行ってください。
なお，マイページの登録がお済みの方は，STEP4に進んでください。



①初めて登録する方は
マイページ登録 から
ログインしてください。



②メールアドレスの登録を行って
仮登録メールを送信＞ を
クリックしてください。



③ユーザー登録画面から
ログインページへ を
クリックしてください。



④登録したメールアドレスに
初期パスワードと
本登録用URLが届きます。
※@e-apply.jpのドメインからのメールを受信できるように設定してください。



⑤ログイン画面から
登録したメールアドレスと④で届いた『初期パスワード』にて
ログイン を
クリックしてください。



⑥初期パスワードの変更を
行ってください。



⑦表示された個人情報を入力して
次へ を
クリックしてください。



⑧個人情報を確認して
この内容で登録する を
クリックしてください。



⑨登録完了となります。
マイページへ を
クリックしてください。



⑩上記ページが表示されたら
マイページ登録は完了です。

※出願受付中の場合のみ，出願手続きを行う > ボタンをクリックすると出願手続に進めます。
登録期間外の場合は，これより先に進めませんので ログアウト ボタンをクリックしてください。

STEP 4

出願内容の登録

画面の手順や留意事項を必ず確認して，画面に従って必要事項を入力してください。



①マイページログイン後の
出願手続きを行う > ボタン
から登録画面へ



②入試選択と留意事項の確認



③志望学部等の選択



④顔写真のアップロード
写真選択へ > ボタンをクリックし
写真を選択します。



⑤個人情報（氏名・住所等）の
入力



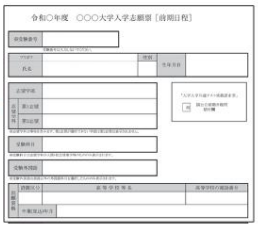
⑥出願内容の確認
入学願書（サンプル） ボタンを
クリックすると入学願書が確認できます。



⑦申込登録完了
引き続き支払う ボタンを
クリックし検定料のお支払い画面へ。



⑧入学検定料の支払い方法
●コンビニエンスストア
●ペイジー対応銀行ATM
●ネットバンキング ●クレジットカード



⑨出願に必要な書類PDF
（イメージ）
※検定料納入後に出力可能となります。

入学検定料の支払い方法で「コンビニエンスストア」または「ペイジー対応銀行ATM」を選択された方は，支払い方法の選択後に表示されるお支払いに必要な番号を下記メモ欄に控えたうえ，通知された「お支払い期限」内にコンビニエンスストアまたはペイジー対応銀行ATMにてお支払いください。

セブン-イレブンの場合

払込票番号 メモ（13桁）	

デイリーヤマザキ，セイコーマートの場合

オンライン決済 番号メモ（11桁）	

ローソン，ミニストップ，ファミリーマート，ペイジー対応銀行ATMの場合

お客様番号 メモ（11桁）	
確認番号 メモ（6桁）	
収納機関番号 （5桁）	5 8 0 2 1

※収納機関番号は，ペイジーでお支払いの際に必要となります。

申込登録完了後に確認メールが送信されます。メールを受信制限している場合は，送信元（@e-apply.jp）からのメール受信を許可してください。 ※確認メールが迷惑フォルダなどに振り分けられる場合がありますので，注意してください。

申込登録完了後は，登録内容の修正・変更ができませんので誤入力のないよう注意してください。ただし，入学検定料支払い前であれば正しい出願内容で再登録することで，実質的な修正が可能です。

※「入学検定料の支払い方法」でクレジットカードを選択した場合は，出願登録と同時に支払いが完了しますので注意してください。

STEP 5

入学検定料の支払い

※本学大学院修士課程修了見込みの者及び国費外国人留学生は不要。

1 クレジットカードでの支払い

出願内容の登録時に選択し，支払いができます。

【ご利用可能なクレジットカード】
VISA, Master, JCB, AMERICAN EXPRESS, MUFGカード, DCカード, UFJカード, NICOSカード

出願登録時に支払い完了

2 ネットバンキングでの支払い

出願内容の登録後，ご利用画面からそのまま各金融機関のページへ遷移しますので，画面の指示に従って操作し，お支払いください。

※決済する口座がネットバンキング契約されていることが必要です

Webで手続き完了

3 コンビニエンスストアでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて，コンビニエンスストアでお支払いください。

●レジで支払い可能

セブン-イレブン / デイリーヤマザキ / ヤマザキデイリーストアー / Seicomart

●店頭端末を利用して支払い可能

Loppi / LAWSON / MINI STOP / マルチコピー機 / FamilyMart

4 ペイジー対応銀行ATMでの支払い

出願内容の登録後に表示されるお支払いに必要な番号を控えて，ペイジー対応銀行ATMにて画面の指示に従って操作のうえお支払いください。

※利用可能な銀行は「支払い方法選択」画面で確認してください。

各コンビニ端末画面・ATMの画面表示に従って必要な情報を入力し，内容を確認してから入学検定料を支払ってください。

3 コンビニエンスストア

セブン-イレブン	デイリーヤマザキ ヤマザキデイリーストアー	ローソン ミニストップ	ファミリーマート	セイコーマート
店頭レジ	店頭レジ	Loppi	マルチコピー機	店頭レジ
レジで「インターネット代金支払い」と伝える	レジで「オンライン決済」と伝える	「各種番号をお持ちの方」を選択	「代金支払い/チャージ（コンビニでお支払い Payment/Charge）」を選択	レジで「インターネット代金支払い」と伝える
「払込票番号（13桁）」を伝える	「オンライン決済番号（11桁）」を伝える	「お客様番号（11桁）」入力	「お客様番号（11桁）」入力	「オンライン決済番号（11桁）」を伝える
		「マルチペイメントサービス」を選択		
		「確認番号（6桁）」入力	「確認番号（6桁）」入力	
		支払い内容確認	支払い内容確認	
レジで検定料を現金で支払う※		発券された申込券（受付票）をレジへ持参し，検定料を現金で支払う※ 申込券（受付票）発行後は30分以内にレジにて支払ってください。		レジで検定料を現金で支払う※
領収書（レシート形式）を必ず受け取る		払込受領証または受領書（レシート形式）を必ず受け取る		

4 銀行ATM

Pay-easy 利用ATM
ペイジー対応銀行ATM
「税金・料金払い込み」などを選択
収納機関番号「58021」を入力
「お客様番号（11桁）」入力
「確認番号（6桁）」入力
支払い内容確認
「現金」「キャッシュカード」を選択し支払う※
ご利用明細書を必ず受け取る

※ゆうちょ銀行・銀行ATMを利用する場合，現金で10万円を超える場合はキャッシュカードで支払ってください。コンビニエンスストアを利用の場合は現金で30万円までの支払いとなります。

STEP 6

必要書類の印刷と郵送

登録しただけでは出願は完了していませんので注意してください。

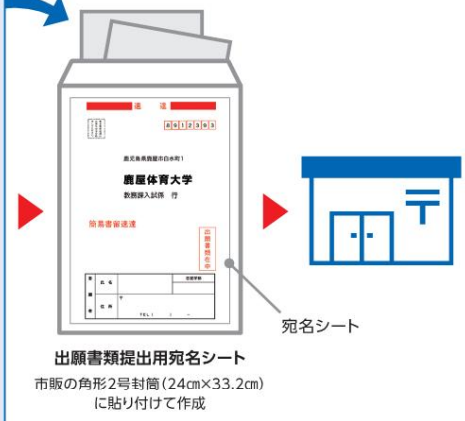
出願登録，入学検定料の支払後にダウンロードできる書類を印刷し，その他の必要書類と併せて出願期間内に郵便局窓口から「簡易書留速達郵便」で郵送または持参してください。※出願締切日の17時15分必着。

必要書類

入学願書

入学願書

＋ **その他の書類**



出願書類提出用宛名シート
市販の角形2号封筒（24cm×33.2cm）に貼り付けて作成

送付先　〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1
鹿屋体育大学　教務課入試係　行

「入学願書」の印刷方法



(1) マイページに表示された 入学願書（印刷） のボタンをクリックしてください。

(2) お支払いが正常に完了すると 入学願書（印刷） のボタンがクリックできるようになり入学願書の出力ができます。

■出願書類

詳細は学生募集要項を確認してください。

※出願受理した入学検定料・必要書類は一切返却しません。

〈出願完了〉

出願時の注意点

出願はインターネット出願サイトでの登録完了後，入学検定料を支払い，必要書類を郵送（持参）して完了となります。登録が完了しても出願書類の提出期限に書類が届かなければ出願を受理できませんので注意してください。

インターネット出願は24時間可能です。ただし，出願登録及び入学検定料の支払いは出願締切日15時まで（営業時間はコンビニエンスストアやATMなど，施設によって異なります），必要書類の郵送（持参）は出願締切日の17時15分必着です。ゆとりを持った出願を心がけてください。

STEP 7

受験票・受験者心得の印刷

本学で出願を確認後，各入試毎に試験日の1週間前を目途に一斉に受験票及び受験者心得を配信します。インターネット出願サイトよりダウンロードできる状態にしますので，必ず印刷し，内容を確認のうえ，試験当日持参してください（※郵送はいたしません）。

※受験票及び受験者心得のダウンロードが可能になりましたら，出願時に登録したアドレスへメールで通知します。



【印刷に関する注意事項】受験票は必ずA4用紙に片面印刷にしてください。

⑷　郵送・提出が必要な書類等について

入学検定料の支払いを完了しても，まだ出願手続きは完了していません。引き続き，出願に必要な書類の印刷及び郵送・提出を出願書類提出期間に行ってください。

郵送（必着）または持参が必要な出願書類等は以下のとおりです。

① インターネット出願サイト入力後にダウンロードできるもの

各自ダウンロード・印刷してください。

出願書類等	提出該当者	摘　　要
入学願書	全員	出願登録を行った後にダウンロードできる様式を印刷（A4両面長綴じ）し，出願書類提出期間内に必ず到着するように提出してください。
宛名シート	〃	出願書類等郵送用として，市販の角形2号封筒を事前にご用意ください。 出願登録を行った後にダウンロードできる宛名シートを印刷（A4片面，カラー）し，準備した封筒の表側に貼り付けて，切手を貼付の上，郵便局の窓口から郵送又は持参してください。

② ホームページに様式を掲載しているもの

本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/admission/graduate-school/doctor/physical-education/）へアクセスし，ダウンロードの上，記入してください。

出願書類等	提出該当者	摘　　要
研究計画書	全員	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。 また，**研究指導を希望する教員とあらかじめ履修・研究内容等について相談し，指導の同意を得た上で，提出してください。**
研究歴証明書	出願資格⑺ 該当者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
志望理由書	出願資格⑻ 該当者	本学所定の様式に「大学院で学ぶ動機，理由」（2,000 字程度）を記入し，提出してください。
入学資格審査 希望調書	出願資格⑹～⑻ 該当者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
SS 認定調書	SS 認定希望者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
体育・スポーツ歴調書 （SS 認定希望者用）	〃	本学所定の様式により，大学入学以降の競技歴，指導歴，研究歴等を記入の上，提出してください。 ・国際大会での競技成績・記録を証明する資料を必ず添付してください。
SC 認定調書	SC 認定希望者	本学所定の様式により必要事項を記入の上，提出してください。
体育・スポーツ歴調書 （SC 認定希望者用）	〃	本学所定の様式により，大学入学以降の競技歴，指導歴，研究歴等を記入の上，提出してください。 ・各国代表選手を指導又はサポートしたことを証明する資料を必ず添付してください。
指導活動計画書 （SC 認定希望者用）	〃	本学所定の様式に「入学後及び修了後の指導計画」を記入の上，提出してください。
経費支弁書	外国人留学生のみ	本学所定の様式により，必要事項を記入の上，出願書類提出期間内に必ず到着するように提出してください。

③ 各自で事前に用意するもの

インターネット出願サイト入力前にそれぞれご準備ください。

出 願 書 類 等	提出該当者	摘　　要
顔 写 真 データ	全員	インターネット出願サイトへの登録時に必要となります。上半身，無帽，正面向き，背景無地で提出前 3 か月以内に撮影した鮮明な写真を準備してください。データファイル形式は jpeg，png，bitmap，gif とし，ファイル容量は10MB までとします。 なお，以下のような写真は使用できません。 ・髪の毛が目にかかっている　・背景がある ・目をつむっている　・アプリ等で顔を加工している ・マフラーやサングラスを着用している
TOEFL は受験者控えスコア票（写真付き） TOEIC は公式認定証 TOEIC－IP はスコアレポート	全員 （ただし，SS又はSCと認定された者は除く。）	出願書類等については，原本を提出してください。（コピー不可。入学試験実施日から過去2年以内に受験したもの） なお，TOEIC Listening & Reading Test を受験し，デジタル公式認定証を発行された者は，IIBC（TOEIC 事務局）から発行された「TOEIC デジタル公式認定証」を印刷の上，提出してください。 また，提出された公式認定証等の書類は出願資格確認後，試験日当日に返却します。
修 士 論 文 等 （論文要旨を含む）	全員	修士論文又はこれに相当する論文1部（コピー可）及び前述の論文の要旨5部（コピー可，日本語で 2,000 字程度）を提出してください。提出された論文及び要旨は，返却できません。 なお，出願時に，修士・博士前期課程修了見込みの者は，「論文の要旨」のみで可とします。
修了（見込）証明書	修士課程修了（見込）者	出身大学（又は最終学校）の長又は研究科長が作成したものを提出してください。
成 績 証 明 書 【要厳封】	〃	出身大学（又は最終学校）の長又は研究科長が作成し，厳封したものを提出してください。
受 験 承 諾 書	大学院博士課程在学者	現に他の大学院博士課程に在学している者は，本学大学院の受験についての当該在学大学の学長（研究科長）の受験承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
受験及び入学に関する承諾書	社会人	現に学校，官公庁又は民間企業等に在職している者で本学大学院に入学しようとするものは，本学大学院への受験及び入学に関する所属長の承諾書（様式任意，要公印）を提出してください。
住　　民　　票	日本に在住している外国人	市区町村長の交付する住民票（国籍・在留期間・在留資格を明記したもの。）を提出してください。 また，大学院入学の際には「出入国管理及び難民認定法（昭和 26 年政令第 319 号）」による大学院入学に支障のない在留資格を必要とします。
パスポートの写し	日本に在住していない外国人	パスポートの本人の氏名・国籍・顔写真のわかるページのコピーを提出してください。
出席率に関する証　　明　　書	外国人留学生のみ	日本国内の日本語教育機関等に在籍にする者または在籍していた者については，当該機関における出席率を証明する書類を提出してください。（様式任意）

（注）日本語以外で書かれている書類については，必ず日本語の訳文を添付してください。

7 出願書類等の提出先及び照会先

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学教務課入試係
ＴＥＬ　0994－46－4869
ＦＡＸ　0994－46－2533
E-mail　nyushi@nifs-k.ac.jp

8 受験票のダウンロード及び印刷

⑴ 大学から受験票の発送は行いません。以下の受験票印刷開始日時以降にインターネット出願サイトにログインの上，各自で印刷してください。なお，受験票の印刷が可能になったら，インターネット出願サイトに登録したメールアドレス宛てに通知が届きます。

受験票の印刷開始日時：令和8年10月13 日（火）10:00（時間は前後する場合があります。）

⑵ 受験票に関する注意事項

① 受験票を印刷後，記載内容を必ず確認してください。出願登録した内容と異なっている場合は，「7 出願書類等の提出先及び照会先」へ10月15日（木）17 時までにご連絡ください。
また，パソコン等に表示された受験番号と，印刷後の受験番号が一致していることを必ず確認してください。

② 受験票印刷開始日時以降に印刷ができない場合は「7 出願書類等の提出先及び照会先」へ10月15日（木）17 時までにご連絡ください。

③ インターネット出願登録した際の受付番号は，受験番号ではありません。

④ 必ず印刷した受験票を持参してください。スマートフォン等での画面表示による受験票の提示は認めません。

⑤ 受験票は，大切に保管しておいてください。

9 受験者心得の案内

受験票の2頁目以降に，受験上の注意事項等を記載した「受験者心得」等についても掲載します。また，試験場案内図等の資料も本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）上に掲載しますので，受験票と一緒にダウンロードの上，必ず事前に確認するようにしてください。

10 試験場

鹿屋体育大学 白水キャンパス
所在地：鹿児島県鹿屋市白水町1番地　　TEL：0994-46-4869
※ 試験場については，17，18頁の位置図等を参照してください。

11 合格者の発表

令和8年11月2日（月）10時

本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）上で，「合格者受験番号一覧表」を発表するとともに，合否照会専用サイトからも確認できます。

なお，合格通知書については発行しません。

また，電話等による合否の問い合わせには，一切応じません。

合否照会専用サイト：https://www.gouhi.com/nifs-k/

12 入学手続・入学料等

入学手続きはweb入学手続きにて行います。web入学手続きサイトで入学手続期間内に完了してください。入学手続に係る案内は令和9年1月中旬までに通知します。

なお，入学手続期間内に入学手続を完了しないときは，本学の大学院体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）入試合格者としての権利が消滅するので注意してください。

⑴ 入学手続期間　令和9年3月15日（月）～3月23日（火）

① 直接持参する場合の受付時間は,8時30分から17時15分までとします。
ただし,土曜日,日曜日及び国民の祝日（振替休日を含む。）は受付を行いません。

② 郵送の場合は3月23日（火）17時15分必着とします。
（注）入学手続期間後は一切受理しませんので,郵送による場合は郵送期間を十分に考慮してください。

⑵ 入学料等学生納付金

① 入学料　　282,000円（予定額）
ただし，本学大学院修士課程修了見込みの者は，入学料は不要です。

② 授業料・前期分　267,900円（予定額）
・年　額　535,800円（　〃　）

ア 入学料・授業料については，予定額をお知らせしています。改定があった場合には，随時お知らせします。
イ 在学中に授業料の改定が行われた場合は，改定時から新授業料が適用されます。

③ 諸経費
学生教育研究災害傷害保険（通学中等傷害危険担保特約付）料（3年間）2,600円
学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険料（3年間）1,020円
鹿屋体育大学厚生会入会費　2,000円（本学出身者は不要）

13 第2次募集

入学定員に欠員が生じた場合は，下記の日程により第2次募集を行う場合があります。

第2次募集実施の有無については，令和8年12月1日（火）以降に本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で情報提供を行います。

インターネット出願サイト登録期間	令和9年2月5日（金）～2月17日（水）15時
出願書類提出期間	令和9年2月12日（金）～2月17日（水）
選抜日程	令和9年3月9日（火）
合格者発表日	令和9年3月12日（金）
入学手続期間	令和9年3月15日（月）～3月23日（火）

14 指導教員及び副指導教員

本研究科体育学専攻の設置の趣旨に基づいて，人文・社会・自然の諸科学から総合的に「人間活動としての体育・スポーツ」について実践的な研究を進めるために，入学後に指導教員と2人の副指導教員の指導の下で研究を行うこととなります。出願に際して，「研究テーマ」及び「研究計画」に基づき指導教員として研究指導を受けることを希望する教員（研究指導教員となり得る教員）を，22・23頁の「6　体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）担当教員一覧」に記載されている①研究指導担当教員及び26頁の【連携大学院】①研究指導担当教員の中から選ぶ必要があります。

なお，出願の手続を行う前に，必ず研究指導を希望する教員と連絡を取り，あらかじめ入学後の履修・研究内容などについて相談を行ってください。教員の連絡先については，教務課入試係へ照会してください。

また，2人の副指導教員については，入学後に指導教員の指導の下に研究科担当教員の中から選ぶことになります。

15 障害のある者等の事前相談

障害（学校教育法施行令第22条の3に定める障害の程度）のある者等で，受験上及び修学上特別な配慮を必要とするものは，出願に先立ち，令和8年8月18日（火）までに，あらかじめ本学に電話で相談してください。

16 個人の入試情報の開示請求方法

⑴ 開示内容

本人に開示する入試情報は，試験成績です。

⑵ 開示請求登録期間

入試成績開示請求登録は，インターネット出願サイトにて出願登録と同時に行う必要があります。出願登録時に「入試成績開示請求」の欄を「希望する」と選択してください。出願登録期間以外に開示請求登録を行うことはできませんので，注意してください。

⑶ 開示期間

令和9年4月16日～5月15日

⑷ 開示請求者

志願者本人に限ります。（代理人による請求は認めません。）

⑸ 成績開示手数料

1選抜ごとに600円を徴収します。入学検定料の支払い時に合わせてお支払いください。

⑹ 開示の方法

入試成績開示はオンライン上で実施します。

開示期間中は Web 出願システムにログインの上，個人成績を確認できます。詳細については，本学ホームページの「メニュー」→「入試情報」→「入試情報（共通事項）」→「個人成績の開示請求」で確認してください。

⑺ 開示手数料の返還

下記の場合以外は，既納の開示手数料はいかなる理由があっても返還しません。

ア 出願書類等を提出したが，受理されなかった場合

該当者に連絡しますので，所定の期日までに手続を行ってください。

イ 開示請求手数料を振り込み後，本学に出願しなかった場合

上記イについては，本人の申し出により納入された開示手数料は返還することができますので，必ず令和8年10月20日（火）までに教務課入試係（電話0994-46-4869）へ連絡してください。

⑻ その他の注意点

① 上記開示期間外における成績開示は行いません。

② 返還請求期限を超過した場合，開示手数料の返還には一切応じかねます。

③ 郵送，電話，メール及び教務課入試係の窓口での開示請求については受け付けません。

17 その他

⑴ 入学者選抜に関し，不正な行為又は虚偽の事実があった場合は，合格を取り消すことがあります。

⑵ 出願書類（外国語に関する公式認定証等の書類を除く。）は返却しません。

⑶ 受験についての詳細は，出願書類を提出した者に提供する「受験者心得」を参照してください。

⑷ 集合時刻に30分を超えて遅刻した者は，受験を認めません。

⑸ 個人情報の保護に関する法律に基づき，個人情報（出願書類への記載内容及び試験成績）については，入学者選抜に係る業務（追跡調査を含む。）及び修学指導に使用します。

また，入学料・授業料免除（猶予）及び奨学金を申請した者にあっては，選考資料として使用します。

⑹ 学生募集要項に関し，不明な点や質問がある場合は，以下の問い合わせ先に照会してください。

なお，電話による問い合わせは，原則として志願者本人が行ってください。

◆問い合わせ先　〒891-2393　鹿児島県鹿屋市白水町1番地
鹿屋体育大学　教務課　入試係
T　E　L 0994-46-4869
F　A　X 0994-46-2533
E-mail nyushi@nifs-k.ac.jp

◆入試情報の提供

本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）で，入試情報等を提供しています。

なお，ホームページ上で，「合格者受験番号一覧表」を掲載しますが，必ず合否照会専用サイトで確認してください。

18 福利厚生等

◆福利厚生

⑴ 学生宿舎

学生宿舎への入居を希望する者は，本学ホームページ（学生宿舎の入居者（新入生）募集についてのページ/令和9年1月上旬公開予定）へアクセスし，入居申請に必要な書類をご確認の上，下記の入居申請受付期間内に申請書類を提出してください。

○入居申請受付期間

令和9年1月25日（月）～2月17日（水）

○申請書類等の提出方法および窓口

①提出方法：持参又は郵送

※郵送の場合は，封筒の表に「学生宿舎入居申請」と朱書きしてください。

※入試の出願書類，入学手続き書類とは封筒を分けて提出してください。

②書類送付先及び受付窓口：

〒891-2393 鹿児島県鹿屋市白水町1番地 鹿屋体育大学 学生課生活支援係

窓口時間：8時30分～17時15分 電話：0994－46－4889

メール：gaku-s3@nifs-k.ac.jp

○選考結果通知

令和9年3月9日（火）10時

本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/）上で，入居許可となった者の受験番号と入居する棟の部屋番号を公表します。

その後，令和9年3月10日（水）に，提出された通知用封筒にて許可者には許可通知書（入居手続き関係書類を同封），不許可者には不許可通知書を発送します。

○入居開始日

令和9年3月29日（月）～令和9年3月31日（水）

※これより前に入居（引越し）することはできませんので，あらかじめご了承ください。

⑵ 職員宿舎

本学大学院生については，本学の職員宿舎への入居が可能となっております。職員宿舎への入居を希望される場合は下記の問い合わせ先に連絡してください。

◆問い合わせ先 鹿屋体育大学 施設課計画係
T E L 0994－46－4852
E-mail sisetu@nifs-k.ac.jp

⑶ アパート等

アパートは地域，部屋の設備等により異なりますが，標準的な家賃は次に挙げるとおりです。

種 類	部屋の広さ	家 賃（月 額）
アパート（バス・トイレ付）	6畳～8畳	25,000円～40,000円程度

⑷ その他

大学会館（白水キャンパス）には，食堂，ギャラリー，理容室，売店及びATMが置かれています。

◆入学料免除・入学料徴収猶予及び授業料免除制度

⑴　入学料免除及び入学料徴収猶予

次に該当する者は，願い出により入学料の徴収免除あるいは徴収が猶予されることがあります。

なお，申請手続等については，令和9年1月中旬頃に公開する入学ガイドブックをご確認ください。

① 本学大学院に入学する者であって経済的理由により納付が著しく困難であり，かつ，学業優秀と認められる者

② 入学前1年以内において，入学する者の学資を主として負担している者（以下「学資負担者」という。）が死亡し，又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けたことにより，入学料の納付が著しく困難であると認められる者

⑵　授業料免除

次に該当する者は，願い出により授業料の免除が認められることがあります。

なお，申請手続等については，令和9年1月中旬頃に公開する入学ガイドブックをご確認ください。

① 経済的理由により納付が困難であり，かつ，学業優秀と認められる者

② 入学前1年以内において，学資負担者が死亡し，又は入学する者もしくは学資負担者が風水害等災害を受けた者

また，別途，「入学試験の成績優秀者」を対象とした入学料特別免除制度を設けています。

◆災害補償制度

学生が教育研究活動中において受けたケガ等の災害事故に対して，補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険」（3年間）や，他人に怪我を負わせたなどの賠償責任事故に対して補償する制度として「学生教育研究災害傷害保険付帯賠償責任保険」（3年間）が設けられており，全員に加入していただいております。（保険料については，13頁の「12　入学手続・入学料等」⑵③諸経費を参照してください。）

そのほか，「国立大学法人学生総合補償プラン」「学研災付帯学生生活総合保険」（任意加入）があります。

◆奨学金制度

⑴ 日本学生支援機構奨学金

学業，人物ともに優秀で，学費の負担が困難であると認められる者に対して，奨学金を貸与しています。

大学院生（博士後期課程）の貸与額は，第一種が月額8万円又は12万2千円，第二種が月額5万円・8万円・10万円・13万円・15万円からの選択型となっています。

なお，奨学生採用については，日本学生支援機構から募集があった際に，掲示にて通知します。

⑵ その他の奨学金

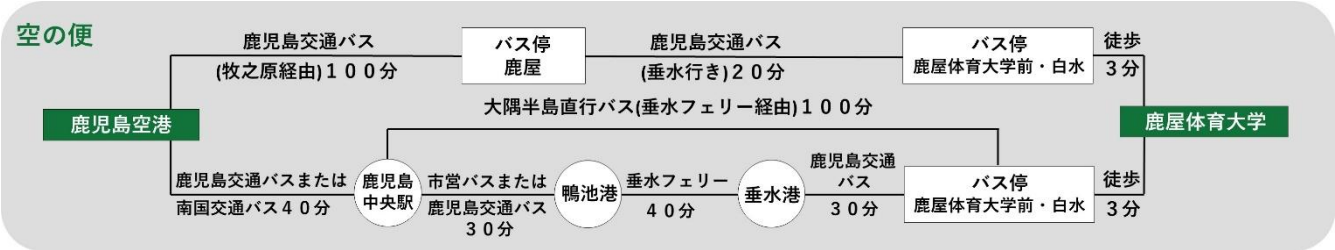
地方公共団体，民間の育英奨学事業団体等の奨学金も扱っています。

◆本学が求める外国人留学生の日本語能力について

本学の授業は原則日本語で行います。従いまして，本学が求める日本語能力は，「日本語教育の参照枠」（令和 3 年 10 月 12 日文化審議会国語分科会）において，高度に自立して日本語を理解し使用することができる水準とされている B2 以上を目安とします。

◆本学までの主な交通経路

1 空の便

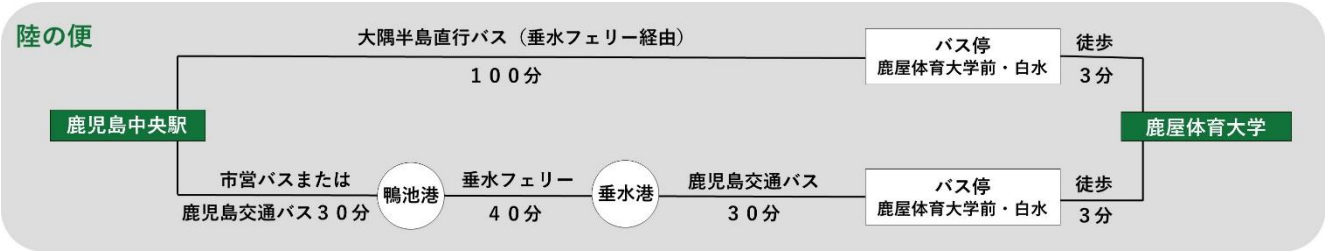


鹿児島空港からの経路

① 鹿児島空港から鹿屋市街地まで空港連絡バス(「鹿屋(かのや)・東笠之原(ひがしかさのはら)」行きの1系統のみ)が運行していますので，乗車し，「鹿屋」で下車してください。　【所要時間　約 100 分】
「鹿屋」からは「垂水(たるみず)」又は「中央病院」行きのバスに乗り「鹿屋体育大学前・白水(しろみず)」で下車してください。
【所要時間　約　20 分】

② 鹿児島空港から鹿児島市内行きの空港連絡バスに乗車し，「鹿児島中央駅」で下車してください。
【所要時間　約　40分】
鹿児島中央駅からの経路については下記「2　陸の便」をご確認ください。　【所要時間　約100分】

2 陸の便



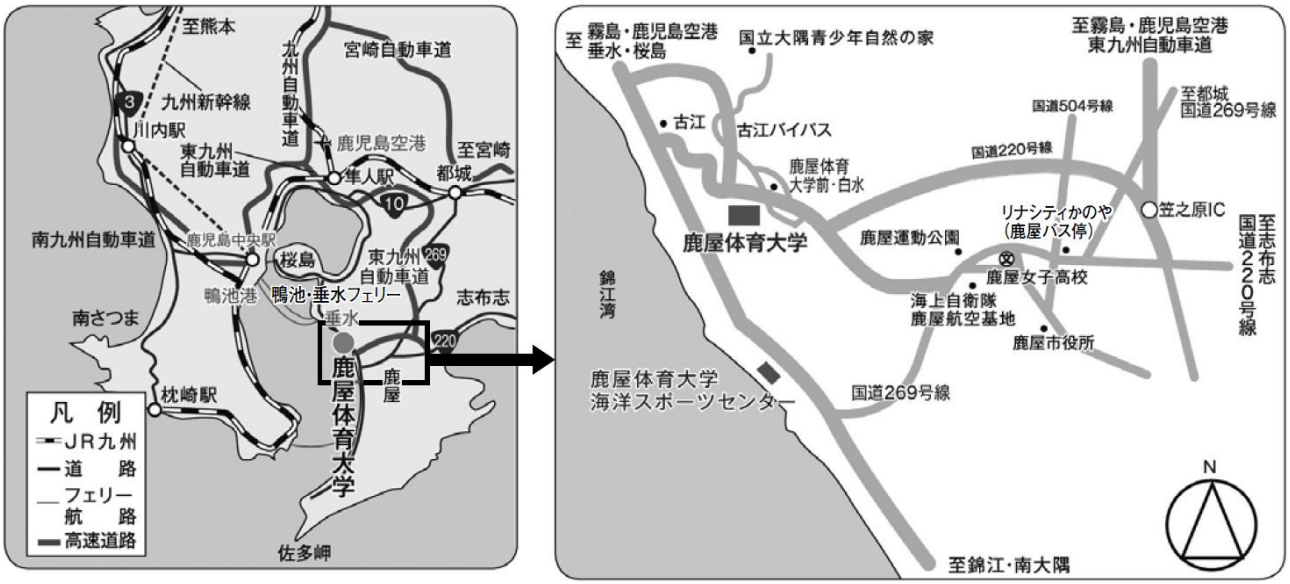
JR鹿児島中央駅からの経路

① JR鹿児島中央駅前から鹿児島交通のJR鹿児島中央駅～鹿屋間直行バスに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。　【所要時間　約 100分】

② JR鹿児島中央駅前から鹿児島市営バス又は鹿児島交通バスの「鴨池港(かもいけこう)」行きに乗車し，終点の「鴨池港」で下車してください。　【所要時間　約　30 分】
タクシーを利用した場合，JR鹿児島中央駅から鴨池港までの所要時間は約 20 分です。
下車したところが鴨池・垂水フェリー発着所となっていますので，そこから「垂水港」行きフェリーに乗船してください。　【所要時間　約　40 分】
垂水港からは鹿児島交通バスが接続していますので，「志布志(しぶし)」又は「東笠之原」行きに乗車し，「鹿屋体育大学前・白水」で下車してください。　【所要時間　約　30分】

(注)交通経路によっては，便数が限られていますので，バス等の運行状況(時刻表等)を事前に確認してください。

◆鹿屋体育大学位置図


至熊本
九州自動車道
宮崎自動車道
九州新幹線
川内駅
東九州自動車道
鹿児島空港
至宮崎
隼人駅
都城
南九州自動車道
鹿児島中央駅
桜島
東九州自動車道
鴨池港
鴨池・垂水フェリー
志布志
南さつま
垂水
鹿屋体育大学
鹿屋
枕崎駅
凡例
JR九州
道路
フェリー航路
高速道路
佐多岬
至霧島・鹿児島空港
垂水・桜島
国立大隅青少年自然の家
至霧島・鹿児島空港
東九州自動車道
古江
古江バイパス
国道504号線
至都城
国道269号線
国道220号線
鹿屋体育
大学前・白水
リナシティかのや
(鹿屋バス停)
笠之原IC
至志布志
国道220号線
鹿屋体育大学
鹿屋運動公園
鹿屋女子高校
錦江湾
海上自衛隊
鹿屋航空基地
鹿屋市役所
鹿屋体育大学
海洋スポーツセンター
国道269号線
N
至錦江・南大隅

鹿屋体育大学大学院体育学研究科体育学専攻
（博士後期課程）入学案内

1 設置の趣旨・目的

近年の少子高齢化，体力・運動能力の低下，生活習慣病の増加等の社会状況の変化の中で，スポーツ活動に対するニーズは多様化，高度化しており，一人一人の体力，年齢，技術，興味・目的や運動による成人病・生活習慣病の予防などに応じて運動プログラムを開発し，効果的に実践に結び付け得る研究能力を備えた指導者の養成が求められています。

また，我が国の国際競技力は相対的に低下している状況にあり，国際競技大会で活躍する競技者の積極的な育成・強化が喫緊の課題となっており，競技スポーツの実践に対する深い理解とスポーツ科学に関する高度で総合的な知識を持ち，高い研究能力を備えた指導者の養成が求められています。

このような状況を踏まえ，本研究科体育学専攻（博士後期課程）では，修士課程での教育研究の成果を基盤として，スポーツ,武道,体育及び健康づくりの分野における諸科学等の研究の成果を学際的・統合的に把握し，新たな学際的複合領域の研究の開発及び研究の成果を実践に結びつけることのできる研究者や指導者の養成を目的としています。

さらに，社会人，国際的水準のアスリート，海外からの留学生を積極的に受入れ，国際的な教育研究の推進を図るとともに，教育研究の国際交流を通じて国内外の体育・スポーツ情報のネットワーク構築をめざしています。

2 教育研究上の特色

スポーツ活動に対する多様化・高度化したニーズに対応したより質の高いプログラムの開発や，国際競技大会で活躍できる競技者の育成・強化が図れる高度専門指導者には，人文社会学的な知識を含め，心身の機能や機構，発育・発達，健康と障害などに関する総合的な理解が求められており，その総合的な理解を進めるためには，学際領域の探求が必要不可欠です。

そのため，スポーツ活動の実践現場において，総合的な科学的トレーニングを実現するばかりでなく，医師や，体育・スポーツの専門指導者，あるいはコーチやトレーナーの抱える現場における諸懸案，又はスポーツ活動を取り巻く社会現象のもたらす諸問題を，それぞれ解決に導くための専門的研究を行い，実験室や研究室と現場との連携を図ることのでき得る創造的，実践的な高度専門指導者を養成し，確保することが強く求められています。

このような課題に応えるために，本研究科体育学専攻（博士後期課程）においては，授業科目を共通領域，スポーツ総合科学領域，スポーツ文化・社会科学領域，スポーツ生命科学領域に区分し，教育課程を編成しています。

教育課程の編成

本研究科体育学専攻（博士後期課程）においては，授業科目を共通領域，スポーツ・武道実践科学領域，スポーツ生命科学領域，スポーツ人文・応用社会科学領域に区分し，教育課程を編成しています。

また，本研究科体育学専攻（博士後期課程）では，国立スポーツ科学センターなど他機関の協力を得て，競技スポーツや生涯スポーツに関するフィールド研究や最先端の機器を活用した実験研究等を行い，理論と実践を統合するための方法を検討する機会を提供するなど，体育学の研究の進展に即応した学際的，多角的な教育が行えるようにしています。

3 国立スポーツ科学センターとの連携大学院について

本研究科体育学専攻（博士後期課程）は，平成19年4月から独立行政法人日本スポーツ振興センターの国立スポーツ科学センターとの間で連携大学院を開始しました。

連携大学院とは，大学院が教育上有益と認める時は，その大学院の学生が他の研究所等において必要な研究指導を受けることができるとされているものです。

具体的には，博士後期課程学生のうち，希望する学生は，国立スポーツ科学センター（所在地：東京都北区西が丘3－15－1）を主な勉学の場として，博士後期課程の授業科目の履修及び研究指導を受けることが可能です。

また，連携大学院における教育研究指導は，国立スポーツ科学センターの研究員を客員教授及び客員准教授に委嘱し，現在の系・領域に対応する専門分野について，同センターの特色を生かした授業担当及び論文指導を行うことにしております。

なお，主として同センターにおいて履修及び研究指導を受ける学生が，本学で開講している授業科目を受講する必要がある場合には，原則遠隔授業にて実施します。（主として本学において履修及び研究指導を受ける学生が，同センターで開講している授業科目を受講する必要がある場合も同様です。）

4 熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学・福岡県立大学との連携大学院について

体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラムでは，鹿屋体育大学を基幹大学として体育系の修士課程を有する熊本大学，鹿児島大学，宮崎大学及び福岡県立大学が連携・協力して博士後期課程の学生に対して教育・研究指導を行うことで，複合領域である体育・スポーツ科学についての高度な知識を有する学生を養成し，鹿屋体育大学大学院の「博士（体育学）」の学位取得を目指します。

鹿屋体育大学・熊本大学・鹿児島大学・宮崎大学・福岡県立大学に通学可能な，博士後期課程への進学を希望している修士課程の2年生，および体育・スポーツ・健康に関わる仕事に従事している現職の教員，行政職員，運動指導者・支援者等を対象としています。

詳細につきましては，本学ホームページ（https://www.nifs-k.ac.jp/admission/graduate-school/doctor/cooperation-program/）をご参照ください。

5 履修方法等

⑴ 履修方法

修士課程（あるいは博士前期課程）において専攻した領域を基礎として主たる専攻領域を決定し，共通領域の「統合研究セミナー」（必修科目）と，博士後期課程にのみ開設する各系の授業科目の中から，指導教員と副指導教員が開設する科目を中心として，博士論文のテーマに関連する科目について，16単位以上を修得しなければなりません。

ただし，本学大学院体育学研究科体育学専攻（修士課程）修了者以外の者に対して，指導教員が必要に応じて，修士課程で開設する授業科目を別に履修させることがあります。

なお，科目履修においては，三つの領域からの学際的な科目の履修を主眼としますが，他の領域への視野も確保しながら，一つの領域における高度化への履修も可能としています。

⑵ 専攻名及び定員

専攻	入学定員	収容定員
体育学	6人	18人

⑶ 学期及び授業期間

学年を前期・後期に区分し，各授業科目は学期ごとに完結するよう開講されています。

・前 期　　4月1日から9月30日まで

・後 期　　10月1日から3月31日まで

6 体育学研究科体育学専攻（博士後期課程）担当教員一覧（令和8年8月現在）

①研究指導担当教員（指導教員又は副指導教員となり得る教員）

区分	氏名（職名）	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	小澤雄二 （教授） [令和11年3月末 退職予定]	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・身体教育特殊研究A ・身体教育特殊研究演習A	1)尿中および血中成分の変動を指標とした武道のトレーニング特性の検討 2)安全で効果的な武道の指導のための用具の研究・開発 3)柔道の授業のための実践的指導プログラムの研究・開発 4)柔道選手の競技力向上に関する研究 以上の4つの方向から主に研究を行っている。
	栫ちか子 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・コープ特殊研究・実習 ・スポーツ教育学特殊研究 ・スポーツ教育学特殊研究演習	保健体育科教育学，舞踊教育学を専門分野とし，学校教育における体育・保健の授業づくりや学修成果・評価をテーマに，授業内容・学修過程・評価規準の設定の可視化を目的とした教材開発，授業改善に向けての授業実践等について，量的研究法と質的研究法を複合的に用いて研究を進めている。
	金高宏文 （教授） [令和11年3月末 退職予定]	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツ運動における「技能の習得」や「動作の改善」時に生じる「コツ・カン」や「フォーム」の変化について調査・測定している。 現在は，各スポーツ種目における初心・初級者のコツや技術，その指導・トレーニング方法を探求している。専門はスポーツ運動学及びトレーニング学で，スポーツバイオメカニクスと指導者育成・再研修のカリキュラム論についても取組んでいる。
	高井洋平 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・トレーニング科学特殊研究 ・トレーニング科学特殊研究演習	発育期の子ども，高齢者およびスポーツ選手を対象に，身体組成，筋機能および運動能力におけるトレーナビリティに関する研究を，運動生理学的およびバイオメカニクス的手法を用いて行っている。
	高橋仁大 （教授）	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツにおける戦略・戦術分析のためのゲームパフォーマンス分析ならびに Performance Analysis を行っている。特に映像を用いた分析ならびにフィードバック手法，またゲームパフォーマンス分析を基にしたゲームパフォーマンス評価に関する研究を進めている。これらの研究が実験室的研究で終わることなく，スポーツの実践場面に貢献できるような，フィールドでの実践的活動も重点的に行う。
	田巻弘之 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・体力科学特殊研究 ・体力科学特殊研究演習	疲労及び筋持久力の改善に関する神経-筋系の制御機構や，運動刺激が筋・骨格系の組織細胞の形態や機能に及ぼす影響に関する領域をテーマとしている。また加齢や不動によって骨や骨格筋がどのように萎縮するのか，どのような運動・トレーニングで防止できるのか等について組織・細胞を各種顕微鏡で観察して解明しようとしている。
	中垣内真樹 （教授）	・ヘルスサイエンス特殊研究 ・ヘルスサイエンス特殊研究演習	中高齢者を対象として健康づくり，介護予防のための運動の実践方法やその効果について研究している。地域での効果的な運動の普及を目指して運動プログラムを作成し，実際に地域等で実践指導をしてその効果を検証しながら運動の有用性や意義を明らかにする。
	永原隆 （教授）	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツ科学を研究領域とし，競技力向上に有用となる知見を得るために研究を行っている。スプリント走学を専門とし，子供から高齢者，アスリートを対象として，スプリント走の機序，評価法，効果的なトレーニング手段の解明を進めている。また，研究に用いる器具やソフトウェアの開発を行っている。
	中本浩揮 （教授）	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習	スポーツの熟達化をテーマとし，優れた競技者の視覚システムおよび予測能力と運動修正能力といった知覚・認知技能の特徴やその獲得方法について，心理物理学，生理心理学的手法を用いて研究を行っている。
	沼尾成晴 （教授）	・ヘルスサイエンス特殊研究 ・ヘルスサイエンス特殊研究演習	肥満や生活習慣病の危険因子を改善するための効果的な身体活動や運動方法の開発を目指し，呼気や血液指標（生化学指標，アディポカイン）などを用いて，急性運動や慢性運動のエネルギー代謝（糖代謝，脂質代謝）に及ぼす影響について応用的な研究を進めている。また，中高齢者に対する運動や身体活動を増加させるための方法，またその効果についても検討している。
	廣津匡隆 （教授）	・スポーツ・リハビリテーション 医科学特殊研究 ・スポーツ・リハビリテーション 医科学特殊研究演習	整形外科的スポーツ傷害の発症予防と運動療法について，特に膝・足の下肢や肩・肘の上肢のスポーツ障害を中心に，その病態・予防法・治療法に関して研究を行う。各スポーツにおけるスポーツ傷害発症のメカニズムを解明し，メディカルチェックなどを通して個人の身体的特徴を評価することにより，障害予防のための最適なトレーニング法などについて研究を行う。

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	藤井康成 (教授) [令和9年3月末 退職予定]	・スポーツ医科学特殊研究 ・スポーツ医科学特殊研究演習	スポーツ医科学における整形外科的疾患の予防と運動療法について，特に肩・肘の上肢，膝・足の下肢関節のスポーツ障害を中心に，その病態や治療法，予防法に関して研究を行う。スポーツ選手の身体機能を評価するメディカルチェックを通して，体の柔軟性やアライメントの評価法から障害予防のためのトレーニング法などについても研究をすすめる。
	藤田英二 (教授)	・運動処方論特殊研究 ・運動処方論特殊研究演習	アスレティックトレーナーの専門領域であるアスレティックトレーニング，および高齢者の健康づくりについて研究を行っている。アスレティックトレーニングでは，特にスポーツによる外傷および障害予防に関するフィジカルコンディショニングや，そのトレーニング法に関して取り組んでいる。高齢者の健康づくりでは，健常高齢者から低体力の虚弱者まで幅広い層を対象とした運動の手法とその効果について研究している。
	堀内雅弘 (教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・スポーツ生理学特殊研究 ・スポーツ生理学特殊研究演習	専門領域は運動生理学(呼吸・中心循環，および末梢循環応答)，および環境生理学である。具体的には，運動時の呼吸循環応答のメカニズムを明らかにしようとしている。この要因解明のために，環境要因(低酸素・暑熱等)を負荷した状況での実験研究を行っている。さらに，これら環境要因が脳循環応答に及ぼす影響と認知機能の関連についても検討している。
	前田明 (教授・副学長)	・スポーツバイオメカニクス特殊研究 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	運動技術の習得を力学的に得るためにモーションキャプチャーシステム，ハイスピードカメラ，フォースプレート等を用いてバイオメカニクス的に動作を分析する。競技力向上に関するトレーニング効果をバイオメカニクス的見地から考察する。
	三浦健 (教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	スポーツにおける技術面，戦術面，試合の運営等に焦点を当て，実践活動に直接寄与する知見を，数値データや画像データを提示することにより，「実践事例研究論文」として作成する方法論を用いた研究を行っている。また，実践事例研究論文作成のための方法論を確立するために取り組んでいる。
	森司朗 (教授) [令和9年3月末 退職予定]	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習	1)幼少年期の心身両面からの運動発達 2)運動認知メカニズムや運動学習のプロセスなどの理論的な研究及びメンタルトレーニングや認知トレーニングへの応用 3)コミュニティ心理学的アプローチを通して自閉症児の治療教育などの実践的研究 4)脳内神経連絡経路などの基礎研究 以上の４つの方向から主に研究を行っている。
	吉田剛一郎 (教授)	・スポーツ生化学特殊研究 ・スポーツ生化学特殊研究演習	運動負荷にともなう生体内代謝変化について検討を行っている。栄養素の異化によるエネルギー産生および疲労をテーマとし，その一つとして脂肪酸代謝のコファクターであるカルニチンの末梢および中枢におけるはたらきを検討している。
	與谷謙吾 (教授)	・体力科学特殊研究 ・体力科学特殊研究演習	外部刺激に対する身体の反応パフォーマンスについて，時間的側面(反応時間)から中枢(神経系)や末梢(筋系)の時間要素に区分して評価し，各系でのトレーナビリティー等について研究を行っている。

②授業担当教員(副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	竹中 健太郎 (教 授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	我国発祥の伝統運動文化である武道(剣道)おいて,その競技性と文化性の共存に向けたコーチングの探求,構築を目指す研究を推進している。競技力向上の要因,あるいは技術習得の効率性についての実践的な検証と並行し,剣術が現代の剣道に見られる運動形態に発展する過程で伝承されてきた精神性を追求する。競技の発展と伝統文化の継承の二軸の視点から,後世への伝承の方法論について検討している。
	中村 夏実 (教 授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	海洋スポーツ種目(特にボート,カヌー)における水上パフォーマンスの評価方法や総合的な競技力の評価体系の確立に取り組みながら,国際的な競漕力の獲得を目指すユニバ世代の体力的・技術的目標の設定と目標達成のためのトレーニング方法を探求している。 一方で,海洋スポーツ全般の心身への健康増進効果のエビデンスの蓄積に取り組んでいる。
	和田 智仁 (教 授)	・スポーツ情報学特殊研究 ・スポーツ情報学特殊研究演習	スポーツにおける情報通信技術の活用をテーマとし,慣性センサ等のウェアラブルセンサを用いた動作分析やデータの可視化,スポーツ現場におけるタブレット活用,映像のフィードバック手法などの研究に取り組んでいる。
	幾留 沙智 (准教授)	・スポーツ心理学特殊研究 ・スポーツ心理学特殊研究演習Ⅰ ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ	パフォーマンス向上に関連する内容として,運動の素早い修正方略及び修正メカニズムの解明,練習の質を高める心理特性の解明に向けて実験法や質問紙調査法を用いて研究を行っている。またパフォーマンス発揮に関連する内容として,メンタルトレーニングの効果検証といった実践研究に取り組んでいる。
	石原 豊一 (准教授)	・コープ特殊研究・実習	サッカー選手や野球選手の巨額の契約での移籍が世間を賑わせています。アスリートはなぜ国際移動をするのか,私の研究テーマの興味はここにあります。ただし,とくに焦点を当てているのは,メジャーリーガーの大谷選手のような「ビッグディール」での移動ではない「普通の」アスリートの移動です。日本からの移動とは逆に,近年は途上国から日本への移動も様々なかたちで起こっています。そのような移動を研究していく中,国際開発とスポーツというテーマにも遭遇しました。
	小崎 亮輔 (准教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ	柔道に関連した研究を実施している。これまでに実施してきた研究のテーマは以下のとおりである。 1.障害児を対象とした発達支援活動である「柔道療育」の効果の検証 2.柔道における段階的かつ細分化された指導方法の検討及び開発 3.柔道高段者及び中高齢実践者の健康状態に関する研究 4.柔道競技における競技映像分析ツールを用いたパフォーマンス評価
	隅野 美砂輝 (准教授)	・スポーツ経営学特殊研究 ・スポーツ経営学特殊研究演習 ・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ	主にプロスポーツに関するスポーツ経営学やスポーツマーケティングについて研究している。その中でもスポーツファンを対象に消費者行動研究の手法を援用し,その行動の解明に取り組んでいる。
	藤井 雅文 (准教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	野球における以下の3つの項目についての評価方法,ならびに効果的なトレーニング方法およびコーチング方法について,実際の指導現場をフィールドにして研究を進めている。 1)走攻守のパフォーマンスについて 2)攻撃戦術および守備戦術について 3)選手が向上するためのチーム(環境)作りについて
	村上 俊祐 (准教授)	・コーチング学特殊研究 ・コーチング学特殊研究演習	テニスにおけるサービスやグラウンドストロークの技術評価に取り組んでおり,そうした評価やニーズ分析に基づいたトレーニング実践による競技力向上の過程に関する研究を進めている。また、テニスの指導者講習を実践するとともに,より効果的な指導者養成プログラムについても検討している。
	山下 龍一郎 (准教授)	・統合研究セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ	スポーツ運動学の理論に基づき,実践に定位した研究を行なっている。主に体操競技について,技術や動きのコツとカン,技の狂い,動きの習熟,修正を対象とした発生的分析,動きの生成と消滅の過程に関する静態的分析,動きの構造,競技規則等に関する構造分析を行なっている。一般的にいう意識的(顕在的)な内容だけでなく,無意識的(潜在的)な内容の解明を進める。

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	宮崎 輝光 (講師)	・スポーツバイオメカニクス特殊研究 ・スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	さまざまなヒトの運動について，パフォーマンスの向上や傷害予防に関わるバイオメカニクス的要因の解明をテーマとして研究を進めている。主に，走・跳・投といったスポーツ動作を対象に，動作分析やシミュレーションなどのバイオメカニクス的手法を用いて取り組んでいる。

【非常勤講師】

③授業のみを担当する教員

氏名(職名)	担当授業科目
川西 正志 (非常勤講師)	・スポーツ社会学特殊研究 ・スポーツ社会学特殊研究演習
真田 久 (非常勤講師)	・スポーツ人文学特殊研究 ・スポーツ人文学特殊研究演習
鈴木 志保子 (非常勤講師)	・スポーツ栄養学特殊研究 ・スポーツ栄養学特殊研究演習

氏名(職名)	担当授業科目
山田 理恵 (非常勤講師)	・スポーツ人文学特殊研究 ・スポーツ人文学特殊研究演習
関 朋昭 (非常勤講師)	・スポーツ経営学特殊研究 ・スポーツ経営学特殊研究演習

【連携大学院(JISS)】

①研究指導担当教員(指導教員又は副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
研究指導担当教員	星川 雅子 (客員教授)	・アスリート・トレーニング科学特殊研究 ・アスリート・トレーニング科学特殊研究演習	アスリートが高い競技パフォーマンスを発揮するために必要となる有酸素性および無酸素性の運動能力，およびコンディショニングに関する研究を行っている。コンディショニングは，特に生体リズムとリカバリーに関する内容を中心に研究を行っており，海外遠征時や早朝・夜間に高い競技パフォーマンスを発揮するための生体リズム操作などが含まれる。
	山下 大地 (客員准教授)	・アスリート・トレーニング科学特殊研究 ・アスリート・トレーニング科学特殊研究演習	スポーツバイオメカニクスとストレングス＆コンディショニングを専門とし，アスリートのパフォーマンス向上のための研究を行っている。ジャンプなどの基本的なスポーツ動作から，タックルなどの競技特異的な動作まで，さまざまな動作のパフォーマンスを評価し，それらを向上させるトレーニング方法について検討している。

②授業担当教員(副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研究領域
授業担当教員	横澤 俊治 (客員准教授)	・アスリート・トレーニング科学特殊研究 ・アスリート・トレーニング科学特殊研究演習	スポーツバイオメカニクス，特に動作解析やスピード分析にもとづくパフォーマンス評価法について研究している。また，スピードスケート，陸上競技，ボート，トライアスロンなどにおける世界一流選手の動作の特徴や日本選手の課題について検討している。

【連携大学院】

①研究指導担当教員(指導教員又は副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研 究 領 域
研究指導担当教員	池 田 孝 博 (客員教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅰ	スポーツ統計学・体育測定評価学の観点から,以下のようなテーマについて研究を行っている。 1)幼児の体力・運動能力,身体活動とその関連要因に関する研究 2)小学生の運動・身体活動に対する意識に関する研究(日韓比較研究) 3)剣道のスポーツサーフェイス(床面)に関する研究
	井 福 裕 俊 (客員教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・身体教育特殊研究A ・身体教育特殊研究演習A	生理学・運動生理学の観点から,1)運動や自律神経刺激に対する心臓・循環システムの調節メカニズムの解明,2)運動や自律神経刺激に対するアスリートの循環応答パターンの特徴,および3)運動トレーニングに対する生体適応現象の解明を主として行っている。
	坂 本 将 基 (客員教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・身体教育特殊研究A ・身体教育特殊研究演習A	これまでは,ヒトが運動のイメージを行っているときの脳活動について,神経生理学的な手法を用いて調べてきた。現在は,主観的な身体の状態と客観的なそれとの間で誤差が生じる現象に着目し,この現象とアスリートの競技特性との関わりについて検討している。

②授業担当教員(副指導教員となり得る教員)

区分	氏名(職名)	担当授業科目	研 究 領 域
授業担当教員	塩 瀬 圭 佑 (客員准教授)	・体育・スポーツの学際的科学論Ⅱ ・身体教育特殊研究B ・身体教育特殊研究演習B	健康や競技パフォーマンスに及ぼす運動と食事の影響について,特に下記のテーマで研究を行っている。1)競技力向上のための糖質摂取・貯蔵に関する研究,2)生体電気インピーダンス法による身体組成評価の研究,3)子どもの生活習慣と健康についての研究

7 開設授業科目及び授業担当教員一覧(博士後期課程)(令和8年8月現在)

科目	科目群	領域	授業科目	担当教員	単位数 必修	単位数 選択	備考
共通	共通科目	共通	統合研究セミナーⅠ	指導教員･副指導教員	4		
			統合研究セミナーⅡ	指導教員･副指導教員	4		
			統合研究セミナーⅢ	指導教員･副指導教員	4		
			体育･スポーツの学際的科学論Ⅰ	森(司)･髙井･田巻･小澤･中本･[池田]･幾留･小崎		1	
			体育･スポーツの学際的科学論Ⅱ	森(司)･[塩瀬]･桝･[井福]･[坂本]･堀内･隅野･幾留		1	
			コープ特殊研究･実習	研究科教務委員会･桝･石原		2~4	
専門	専門科目	スポーツ･武道実践科学	コーチング学特殊研究	髙橋･中村(夏)･竹中･藤井(雅)･永原･金高･三浦		2	
			コーチング学特殊研究演習	髙橋･中村(夏)･竹中･藤井(雅)･永原･金高･三浦		2	
			アスリート･トレーニング科学特殊研究	[星川]･[横澤]･[山下]		2	
			アスリート･トレーニング科学特殊研究演習	[星川]･[横澤]･[山下]		2	
			身体教育特殊研究A	[井福]･小澤･[坂本]		2	
			身体教育特殊研究演習A	[井福]･小澤･[坂本]		2	
			身体教育特殊研究B	[塩瀬]		2	
			身体教育特殊研究演習B	[塩瀬]		2	
		スポーツ生命科学	スポーツ･リハビリテーション医科学特殊研究	廣津		2	
			スポーツ･リハビリテーション医科学特殊研究演習	廣津		2	
			ヘルスサイエンス特殊研究	中垣内･沼尾		2	
			ヘルスサイエンス特殊研究演習	中垣内･沼尾		2	
			運動処方論特殊研究	藤田		2	
			運動処方論特殊研究演習	藤田		2	
			トレーニング科学特殊研究	髙井		2	
			トレーニング科学特殊研究演習	髙井		2	
			スポーツ医科学特殊研究	藤井(康)		2	
			スポーツ医科学特殊研究演習	藤井(康)		2	
			スポーツ生理学特殊研究	堀内		2	
			スポーツ生理学特殊研究演習	堀内		2	
			体力科学特殊研究究	田巻･與谷		2	
			体力科学特殊研究演習	田巻･與谷		2	
			スポーツバイオメカニクス特殊研究	前田		2	
			スポーツバイオメカニクス特殊研究演習	前田		2	
			スポーツ生化学特殊研究	吉田		2	
			スポーツ生化学特殊研究演習	吉田		2	
			スポーツ栄養学特殊研究	【鈴木】		2	
			スポーツ栄養学特殊研究演習	【鈴木】		2	
		スポーツ人文･応用社会科学	スポーツ人文学特殊研究	【山田】･【真田】		2	
			スポーツ人文学特殊研究演習	【山田】･【真田】		2	
			スポーツ社会学特殊研究	【川西】		2	
			スポーツ社会学特殊研究演習	【川西】		2	
			スポーツ経営学特殊研究	【関】･隅野		2	
			スポーツ経営学特殊研究演習	【関】･隅野		2	
			スポーツ心理学特殊研究	森(司)･中本･幾留		2	
			スポーツ心理学特殊研究演習	森(司)･中本･幾留		2	
			スポーツ教育学特殊研究	桝		2	
			スポーツ教育学特殊研究演習	桝		2	
			スポーツ情報学特殊研究	和田		2	
			スポーツ情報学特殊研究演習	和田		2	

【注意事項】
1.非常勤講師については,担当教員名を【 】で表記
2.連携大学院における連携先教員については,担当教員名を[ ]で表記

8 学位の授与

本研究科体育学専攻（博士後期課程）を修了した者には，「博士（体育学）」の学位を授与します。

なお，博士の学位は，本研究科体育学専攻（博士後期課程）に3年以上在学し，授業科目について16単位以上修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，博士論文の審査及び最終試験に合格した者に授与します。ただし，特に優れた研究業績をあげた者については，在学期間を1年以上とすることがあります。

9 大学院設置基準第14条に定める「教育方法の特例」

⑴ 趣旨

社会人学生に対して，大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例を実施することによって，標準修業年限3年間における大学院での修学を容易にし，最新の体育科学に関する再教育，高度な研究能力及び実践的な応用能力・知識を育成する機会を与えることを目的としています。

本研究科体育学専攻（博士後期課程）では，原則として，標準修業年限のうち1年次は学業に専念し，2年及び3年次においては,夜間その他特定の時間又は時期に授業又は研究指導を受けることができます。

なお，この教育方法の特例は，適用を希望する社会人学生に対してのみ実施されます。

特例の適用対象となる学生は，入学時に社会人（有職者）である者又は在学中に社会人（有職者）となった者です。

なお，社会人の定義は，「職業上，恒常的に昼間大学で授業を受けられない者」です。

⑵ 授業の実施方法

授業は原則遠隔授業にて開講します。夜間に授業を行う場合の時間は原則として次のとおりです。

- 第6時限：18：30～20：00　第7時限：20：10～21：40

また，昼間（通常の授業時間帯）の授業科目を履修することも可能です。

なお，授業開講の申し出があった場合には，特定の曜日や夏期・冬期休業期間に授業を行うこともあります。

さらに，授業担当教員と相談の上，対面授業を実施する場合もあります。

⑶ 教育方法の特例の適用を希望する場合

教育方法の特例の適用を希望する場合，事前に教務課教育企画係（TEL0994－46－4862）にご連絡ください。

10 長期履修学生制度

本研究科体育学専攻（博士後期課程）には，長期履修学生制度があります。これは，職業を有している等の事情により，標準修業年限（3年）で修了することが困難な大学院生が，標準修業年限を超えて一定の期間（4年，5年又は6年）にわたり，計画的に教育課程を履修し課程を修了することをあらかじめ申請し，審査の上，許可されるものです。

なお，長期履修学生の授業料年額は，学生が標準修業年限（3年）在学した場合の授業料総額を，長期履修学生として許可された修業年数（4年，5年又は6年）で分割した額となります。ただし，許可された修業年数を超えて留年した場合は，留年分の授業料は一般学生と同額となります。

また，一般学生と同様に在学中に授業料が改定される場合があります。

希望者は，入学手続の際に申請してください。

申請手続時期：

- 入学手続時又は，入学後1年以内とします。

ただし，やむを得ない事情により入学後1年を超えて長期履修が必要となった場合は，研究科教務委員会で審議の上，学長が認めた場合は許可されることがあります。

なお，入学後（在学中）の申請は，収容定員を超えている場合には，許可されないことがあります。